8月
2024年
みやま
第315号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会　平川病院
〔ホームページ〕http://www.hirakawa.or.jp/

（平川院長の右側より弁護士の）立川アジール法律事務所 **奥田 真帆**様、北千住パブリック法律事務所 **前原 潤**様、南魚沼法律事務所 **黒岩 海映**様、西新共同法律事務所 **八尋 光秀**様、佐々木信夫法律事務所 **佐々木 信夫**様、東京アドヴォカシー法律事務所 **池原 毅和**様、大手町法律事務所 **田瀬 憲夫**様、

日弁連の先生方が病院見学にいらっしゃいました。

院長　平川 淳一

東京アドヴォカシー法律事務所 弁護士池原毅和先生から電話があり、当院の造形教室を舞台としたドキュメンタリー映画「心の杖として鏡として」を観て、平川病院に関心をもっていただいたようで見学の依頼がありました。池原先生には、滝山病院の視察の際にもお世話になったので喜んでお引き受けしました。7月19日の午後に7人の先生が来られました。前述の池原毅和先生、西新共同法律事務所　八尋光秀先生、佐々木信夫法律事務所　佐々木信夫先生、大手町法律事務所　福岡オフィス　田瀬憲夫先生、北千住パブリック法律事務所　前原潤先生、南魚沼法律事務所　黒岩海映先生、立川アジール法律事務所　奥田真帆先生で、遠方からも来ていただき恐縮しました。見学する病棟は東館の慢性期閉鎖病棟と南館の急性期病棟にしました。一部コロナのクラスターが発生していたので全部は回れませんでしたが、東館の古い保護室や急性期病棟の電気けいれん療法の部屋も見ていただきました。皆様たいへん興味深く熱心に見学していただきました。もちろん映画の舞台になった造形教室には20分以上滞在いただき、お話を聞いていただきました。

弁護士の先生方との交流はまだ始まったばかりですが、福岡県、大阪府、神奈川県などでは既に交流が深まっており、お互いを知ることで患者さんへのサービス向上になっていると思います。今後、平川病院でも弁護士の先生方との交流を深めていこうと思います。

【表紙】院長あいさつ　【P2】『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』～簡単にこれまでの復習～
【P3】東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業 令和6年度第1回多摩地域圏域連絡会参加報告
【P4】（リレー記事）検査科だより　【P5】内科病棟（在宅復帰機能強化加算病棟）の機能と役割について
【P6】（委員会紹介）広報委員会、令和6年度合同慰霊祭について

『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』
～簡単にこれまでの復習をします～

グループホーム美山ヒルズ　施設長　廣井 亮

これまで何回かに分けて『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』（以下、にも包括）について書かせていただきましたが、これまでの経緯や八王子市での取り組みなどをいきなり書いてきたので「何だかよくわからない…」という声が聞こえてきます。そこで、今回はそのような方々へ向けて、一回最初に立ち返っての「にも包括ってなに？」ということについての振り返りとまとめです。

●にも包括って何？

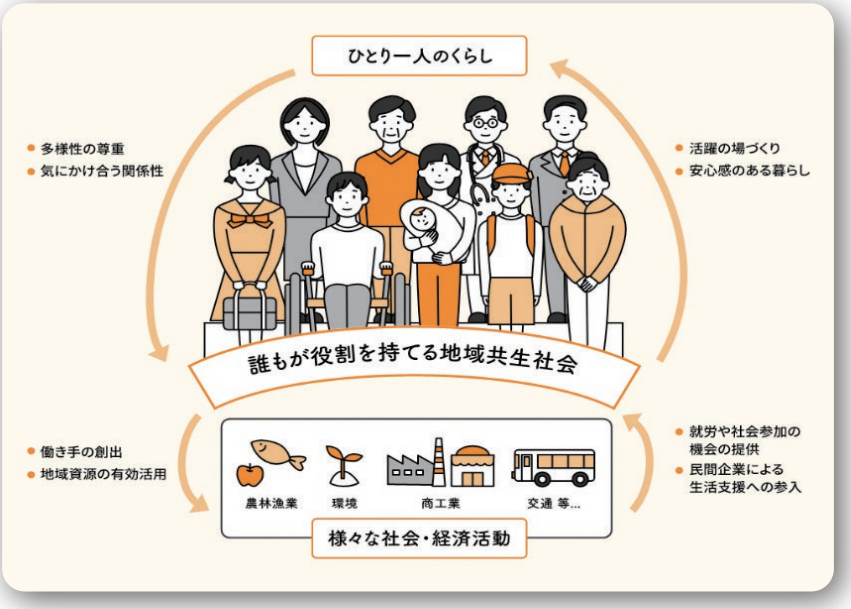
『精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療・障害福祉・介護・住まい・社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）を包括的（全体的・網羅的）に確保するシステム』のことです。目指すところは、地域共生社会を作ることにあります。

●地域共生社会って何？

厚生労働省が提言している『世代や分野を超えてつながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに作っていく社会』のことで、障害者分野でも今目指しているものです。

●なんか解りづらい…

にも包括は、これまでの市区町村の事業でよくあるような「特定の分野の問題・課題に対して新しく1つの事業を立ち上げる」形ではなく、今ある資源や今行っている事業を活かしてシステムを構築するため、イメージしにくいかもしれません。地域生活上の問題に対して、今ある事業を活かし、そこに色々な組織や団体、さらには地域に住まう人たちが連携し、協働して取り組むことで地域の支援体制をつくっていきます。



＊厚生労働省地域共生社会ポータルサイトより

東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業 令和6年度第1回多摩地域圏域連絡会　参加報告

地域生活支援科　公認心理師　丹原 佳折

7月7日（日）開催された「東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業多摩地域圏域連絡会」に参加しました。この事業は、発達障害への専門性の高い医療機関を中心とするネットワークを構築し、発達障害の早期診断が可能な体制を確保することを目的とした事業です。その事業の一環で、定期的に多摩地域の医療機関が参加する連絡会が行われます。

今回の連絡会は「診療情報、困難例の情報共有」をテーマにディスカッションが行われました。参加機関で共通する課題としては、「20代を中心とする若年層への支援」、「行動に課題が見られる本人への支援」が挙げられました。

「若年層への支援」に関しては、特にＡＳＤ（自閉症スペクトラム障害）特性のある方は、ＡＳＤ専門プログラム等への参加以前に、初めての医療機関やデイケアという未知の場所に行く、集団の中で過ごす、人とのコミュニケーションをとることに恐怖や不安を抱える方が多くいます。そのため、安心を得られる居心地のよい場、気楽さや楽しみができる場という認識をもてるように工夫している医療機関が多くありました。当院でも水曜日午前「発達理解プログラム」で、ゲームや運動を用いた小集団コミュニケーションの場を作り、その中で自己理解を深めてもらい、本人の居場所となることを目指すプログラムを行っています。

また、もう一つの「行動に課題が見られること」に関しては、感情コントロールが難しく、攻撃的な言動になる方、医療機関・デイケアのルールを守ることが難しい方について意見交換を行いました。その場合に、本人の言動への適切な評価や振り返りが重要であるとの意見が出ました。これは、行動の背景（理由等）を振り返ることで本人なりの理屈や考えを理解するとともに、社会的ルールの観点からその行動の是非を本人と確認することを通して、本人の考えと社会生活との折り合いをつけることに繋がると考えられます。当院デイケアにおいても、「行動に課題が見られた」時に、本人と社会生活をつなぐ場としての視点で支援していきたいと考えています。

発達障害の方向けプログラム一覧
発達理解プログラム 水曜日AM 11:00～12:00
ASD専門プログラム 水曜日PM 13:30～16:00
ADHD専門プログラム 金曜日PM 13:30～16:00

※月～金：発達障害の方もその他のデイケアプログラムに参加できます。

発達理解プログラムでの一場面

検査科だより

リレー記事

中央検査科　主任　臨床検査技師　齋藤 知香

今回は当院検査科の特徴について知っていただきたいと思います。

精神科というと、あまり検査を行っているという印象は少ないと思いますが、当院では検体検査から生理検査まで各種色々な検査を実施している事が一番の特徴だと思います。

例えば精神科では使用している病院が少ない自動分析装置を当院では導入し、院内での緊急検査を実施しています。自動分析装置では血液などの体液成分を検体とし、糖やタンパク、酵素などの各種成分の測定を行っています。現在は高齢な患者も多く合併症を持つ患者が増えたことで、状態の急変時には迅速な検査を行い、検査データを提供し、より早く治療が行えるようにしています。さらに、この装置の導入で、当院で使用頻度の多いてんかん薬や向精神薬の血中濃度の測定も院内で行えるようになりました。

〔生化学自動分析装置〕

〔自動血球計算機〕

また当院ではクロザピンによる治療を行っており、その治療の重大な副作用として、無顆粒球症や高血糖などが知られています。その為血球数だけではなく、白血球分画まで測定できる自動血球計算機やHBA1ｃの測定機器を導入し、治療患者の定期的な検査を院内で実施、すぐに患者の状況を把握できる体制をとれることでクロザピン治療の導入を可能にしています。

さらに精神科での身体拘束や精神症状による無動が血流の停滞をまねき、深部静脈血栓症（DVT）を発生させるリスクとなるため、血栓症の除外診断のためのD-dimer測定を院内で実施できるようにしています。また、その検査データや患者の血栓リスクから血栓を疑う場合は、画像診断として下肢静脈超音波検査を実施し、より確実に血栓の有無を確認しています。これにより精神科領域での突然死の原因の1つであるDVTに起因する肺血栓塞栓症の発生予防に取り組んでいます。

そして、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行した際には、抗原定量検査が実施できるように新たな測定装置を導入し、精度の高い結果を提供できるようにしました。

その他にも心電図や脳波検査、腹部や心臓の超音波検査、尿検査などを実施しています。私たちはこれからも患者様の治療や診断に貢献できるように正確かつ迅速な検査結果を提供できるよう努めていきたいと思っています。

〔免疫発光測定装置〕

内科病棟（在宅復帰機能強化加算病棟）の機能と役割について

病棟たより

内科病棟　師長　酒井 科衛子

医療療養病床において、入院患者の在宅への復帰を評価するものに「在宅復帰機能強化加算」があります。この在宅復帰機能強化加算は在宅復帰機能の高い病棟を評価したもので、内科病棟は平成26年12月に施設基準が承認され、約10年になります。

在宅復帰機能強化加算の主な特徴です。

1．医療・処置区分2・3の患者が80％以上。
2．1か月以上入院している患者の在宅復帰率が50％以上。
3．急性期病院（7：1）の在宅復帰率に入る。

この特徴を踏まえ、内科病棟では入院受け入れや退院支援を行っていますが、最近の内科病棟の入院患者および退院状況について紹介します。

● 入院患者数（2023年7月～2024年6月末／対象1年間）：1年間の入院患者数101名
他病院から転院：39名（八王子医療センターなど）
施設からの入院：32名（徳寿園など）　　在宅：30名：（数井クリニックなど）

● 退院患者数（2023年10月～2024年3月／対象6か月間）：33名
＊（入院期間が1か月未満の患者、再入院患者及び死亡退院患者を除く）
退院先　在宅：29名 その他：4名 ★在宅復帰率：87.9％（加算要件50％以上）

入院患者の38％以上は急性期病院からの転院ですが、入院当初から在宅復帰を視野に以下のような取り組みを行っており在宅復帰率は87.9％です。

・自立に向けての支援：在宅復帰に向けてのリハビリテーション。家族指導等。
・医療度の高い患者の受け入れ：吸引や点滴が落ち着けば、在宅復帰できる方を受け入れ在宅サービスの紹介やケアマネージャーと連携します。
・自宅で療養されている方の支援：在宅リハビリテーションや介護者のレスパイト目的での入院の受け入れもします。

内科病棟は、長期にわたり療養を必要とする患者さんを受け入れる病棟ですが、在宅復帰機能強化加算を取得することで、急性期病院や近隣の医療機関との連携を深め地域医療に貢献できるように努めています。そして6月末からはさらに連携強化のために、八王子医療センターと患者情報についてオンライン会議を開始しました。始めたばかりですが、より詳しく情報交換ができる場となっています。病棟スタッフは時にオーバーワークになることもありますが、病状が改善し未来へ向かう患者さんやご家族から元気を頂くことも多く、これからも地域の皆さんのご期待に添うようにスタッフ一同頑張ります！

Series 委員会紹介

広報委員会

Q1　委員会ではどんな活動をしていますか？

広報委員会は、広報誌みやま、職員向けの院内報やホームページを作成し、病院の広報活動に取り組んでいる委員会です。広報委員会のメンバーは院長、看護部、地域生活支援科、医療相談科、作業療法科、栄養科、リハビリテーション科、総務課、医事課、診療情報管理室など多職種職員で構成され、委員会内では職種の垣根を超えた活発な意見交換が行われています。委員はみやま班、院内報班、ホームページ班、ファシリテーターに分かれ活動しており、最もホットな情報を届けられるよう一生懸命取り組んでいます。

広報誌みやまは1997年10月から毎月発行されており、今年で27年目になります。企画、原稿依頼、紙面構成に至るまで広報委員会が担当し、病院の取り組み、病棟・部署の紹介、医師の紹介、薬・リハビリ・病院行事の様子、感染症や依存症などについての記事を職員が書いており、医療に関する様々なことをわかりやすく解説しています。とはいえ、ネタ集めはとても大変でネタ集めに苦労し締め切りに追われる事もあります。院長が加わりアドバイスを頂いてからは、より一層平川病院の魅力を伝えたい気持ちが大きくなりネタ集めも随分とスムーズに行えるようになりました。現在はネット・ゲーム依存症、発達障害、にも包括などの特集も組んでいるのでぜひ読んでみてください。

また院内報では、新人職員の紹介や院内のニュース、各部署の取り組みを発信し職員同士のコミュニケーションの活性化、職員同士のつながりを大切にした内容を目指しています。これからも平川病院の魅力をたくさんお届けできるような広報誌やホームページを作っていきます。このシリーズ「委員会紹介」もお楽しみにしてください！

令和6年度 合同慰霊祭について

8月6日、平川病院にて医療法人 光生会の合同慰霊祭がしめやかに執り行われました。

編集後記

高校野球に今年はオリンピックにチャンネルを選ぶのが大変です。テレビでもLiveで応援するのは気合いが入る。4年に一度のチャンスに選手の必死さが伝わってくる。勝っても負けても選手の必死さから感動してしまう。ある和尚さんであったか「必死に頑張るとは言いますが、必死とは必ず死ぬと書きます。そうなんです！人間は必ず死にます。どんなに頑張っても必ず終わりがあります」との話であった。結果はどうあれ最後に必死で頑張ったことは報われる。そうか必死に頑張ろうかと。ニッポン頑張れ！！

医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町１０７６
電 話 ０４２－６５１－３１３１
FAX ０４２－６５１－３１３３
編集　平川病院　広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

HIRAKAWA HOSPITAL